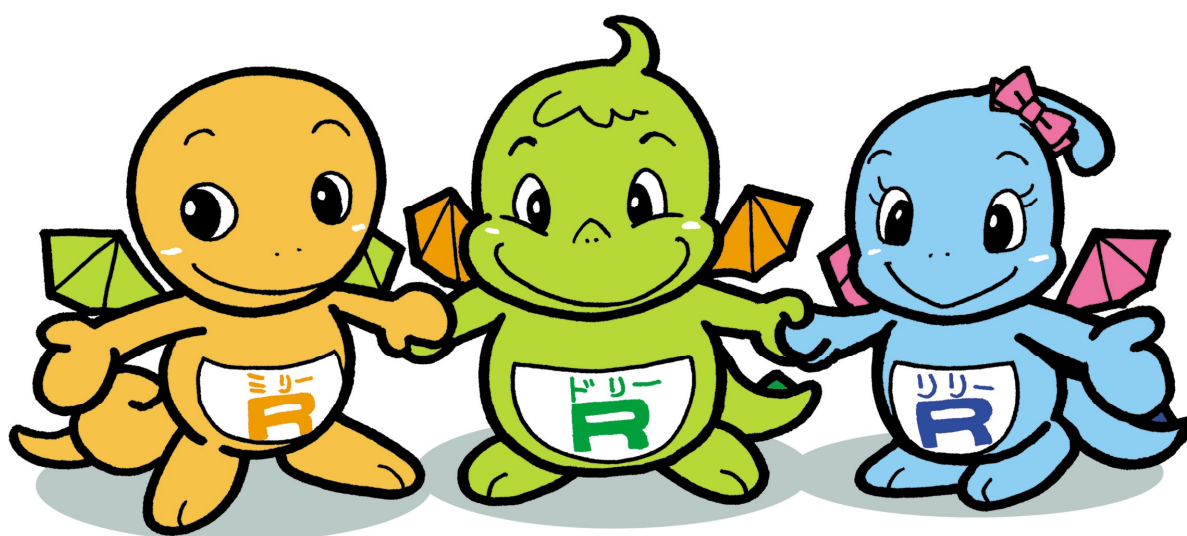


足立区環境基本計画

～平成23年度実績報告～



平成24年10月



足立区

「日本で一番地球にやさしいひとのまち」をめざして

この報告書は、「足立区環境基本計画」で掲げた以下の5つの分野で構成する基本理念に基づき、それぞれの分野に設定した各施策（全44指標）の平成23年度の実績結果や進捗状況及びその評価を取りまとめたものです。

この情報をみなさんと共有し、私たち一人ひとりが環境のことを考え、行動し、「日本で一番地球にやさしいひとのまち、足立区」をめざしていきましょう。

- 1 地球温暖化防止
- 2 循環型社会の構築
- 3 健康・安全な暮らしの確保
- 4 人と自然の豊かなふれあいの創出
- 5 環境に配慮したまちづくり

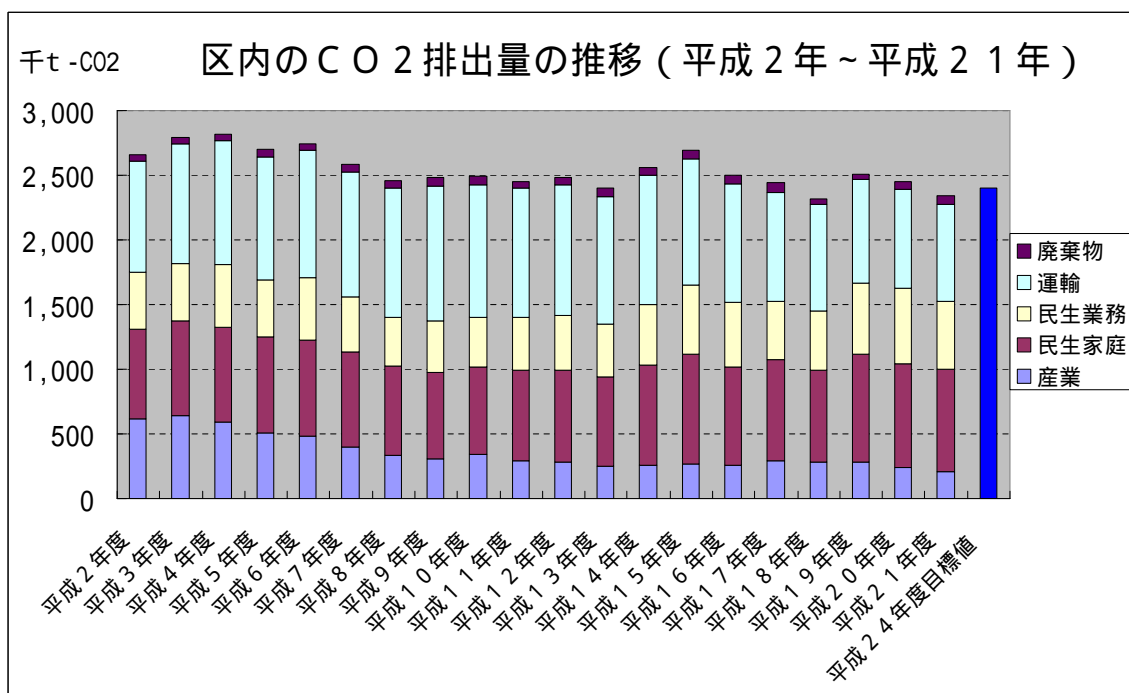
各分野の代表指標

1 地球温暖化防止

地球温暖化の原因となる二酸化炭素（CO₂）を減らします。

代表指標「CO₂排出量」

平成24年度までに、平成2年度比マイナス10%の239万8千トンに減らす。



多種多様な統計データから集計するため、直近の数値は平成21年度の実績値となっています。

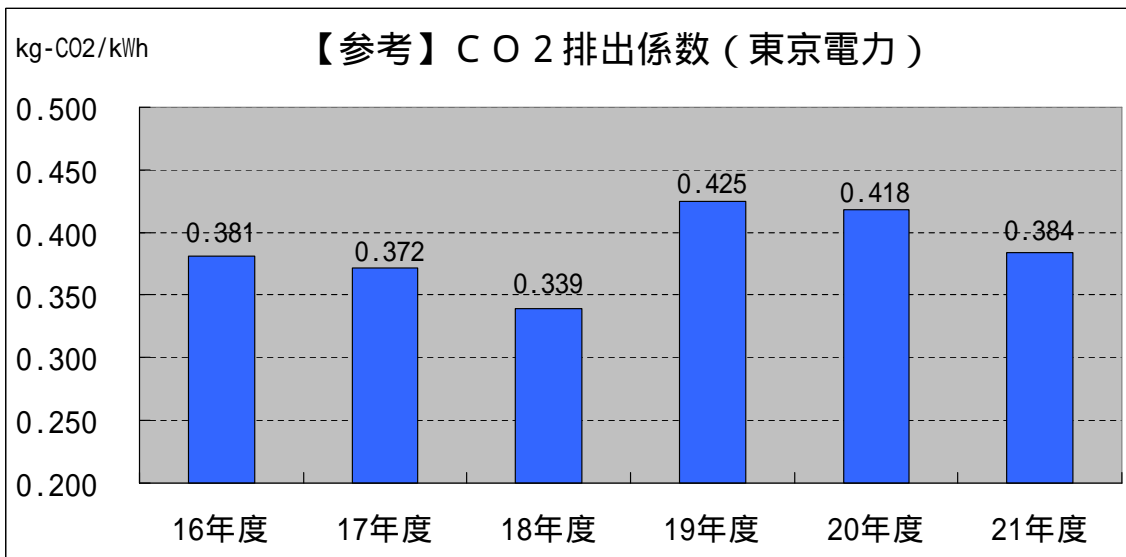
中越地震の際、柏崎原子力発電所が停止して火力発電量が大きくなり、電力のCO₂排出係数()が高くなった影響を受けて、平成19年度の実績値が大幅に増加しているのが分かります。同様に、福島第一原発事故の影響で、火力発電の割合が高まることが予想されるため、今後のCO₂排出量は増加することも考えられます。

足立区内においても、産業部門の排出量が減少していく反面、今後見込まれる世帯・人口増や、大学のオープンなどの増加要因が多いため、目標達成には一層の削減努力をしなければなりません。

電力のCO₂排出係数・・・電力使用量から排出されるCO₂を求めるための単位値です。その年の電源構成により決定され、原子力発電量割合が高い年は排出係数は低くなります。

【CO₂排出量 = CO₂排出係数 × 電気などの使用量】

CO₂排出係数が高くなれば、使用量に増減がなかったとしてもCO₂排出量は増加するということとなります。



2 循環型社会の構築

〔ごみの量を減らします。〕

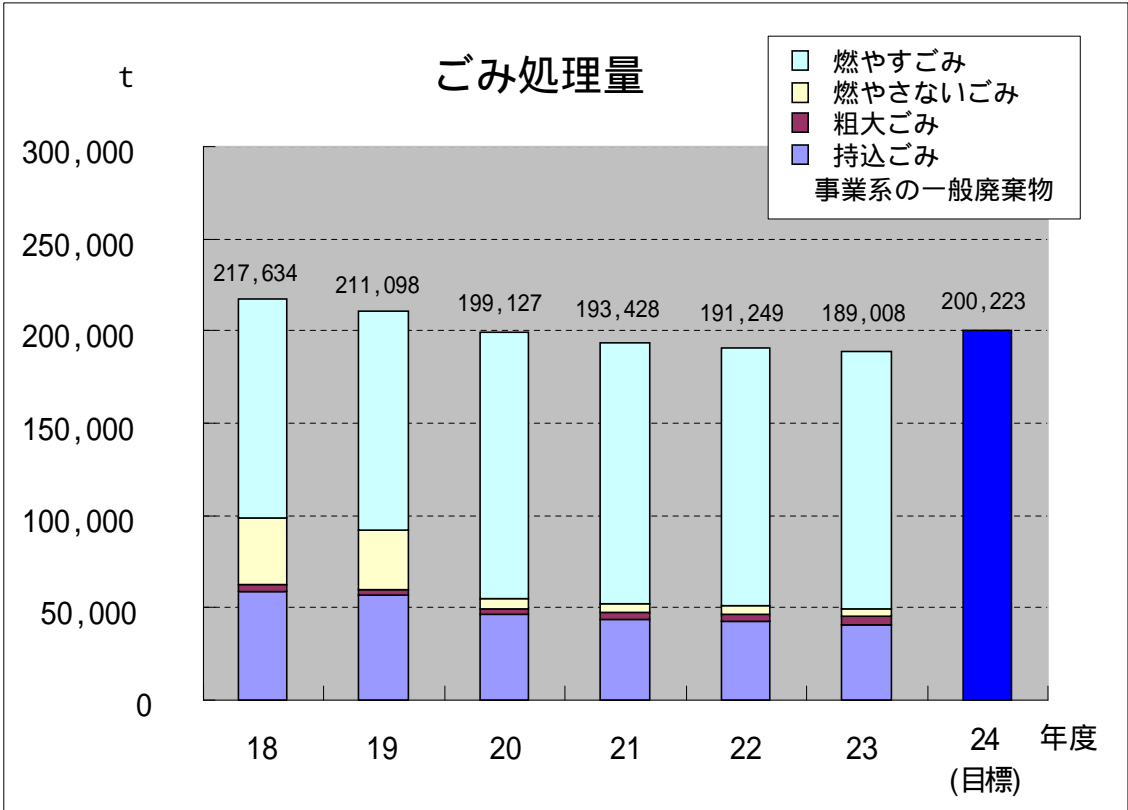
代表指標「ごみ処理量」

平成 24 年度までに、平成 18 年度比マイナス 8%の 20 万 223 トンに減らす。

平成 22 年度から、ごみの減量及び資源化の推進を目的として、燃やさないごみと粗大ごみの資源化モデル事業を開始しました。燃やさないごみは民間施設で選別し、材質ごとに再利用事業者引き渡しています。粗大ごみのうち金属類・電気器具類は選別した後、民間施設で破碎処理し再資源化しています。

ごみの全体量は景気動向に大きく左右されるといわれますが、区民一人ひとりがごみの分別や減量に努めたことで資源化が進み、ごみの総量も年々減少しており、平成 20 年度以降は目標を達成しています。

今後も区民・事業者との連携を図り、ごみの排出量の抑制と廃棄物の適正な処理を進めていきます。



3 健康・安全なくらしの確保

〔 公害を防止し、安全な
環境を確保します。 〕

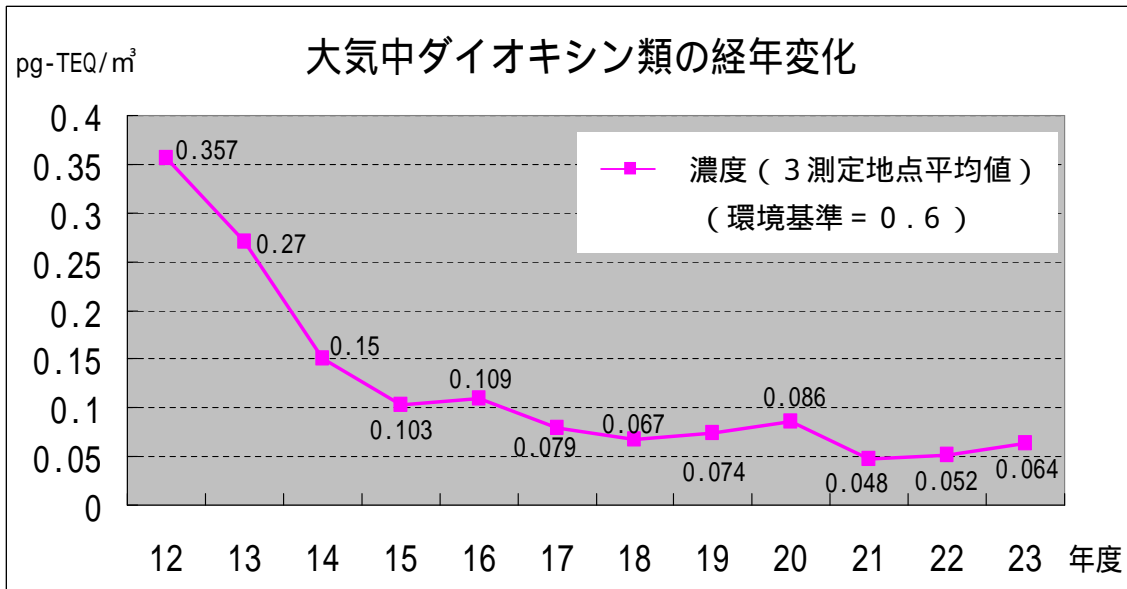
代表指標「ダイオキシン類環境基準適合率（大気）」

大気中のダイオキシン類環境基準()適合率 100%を守り続ける。

ダイオキシン類は、微量でも人体への悪影響が懸念されます。区では、ダイオキシン類が発生する恐れのある小型焼却炉の規制や、野焼きに対するきめ細かな指導など、ダイオキシン類の排出削減に努めています。

平成23年度現在、ダイオキシン類環境基準適合率は 100%を維持しており、今後も 100%を堅持していきます。

環境基準・・・大気・水質・騒音などについて、健康や生活環境を保全するために維持することが望ましい基準として、環境汚染物質などの濃度や音などの大きさを定めた数値。



4 人と自然の豊かなふれあいの創出

（自然を守り、豊かな自然とのふれあいの場を作ります。）

代表指標「川の魚の種類（外来種を除く）」

外来種を除く川の魚の種類を、平成24年度まで20種類を維持する。

水質が改善し、生き物の生息に配慮した河川整備が進むと、水辺の自然も回復していきます。四方を河川で囲まれた「水辺のまち足立区」における自然環境を保つため、河川の魚類の種数が減らない状態を維持していきます。

平成23年度は、区内を流れる4河川（綾瀬川、荒川、圀川、毛長川）計7地点で調査を行い、合計5目8科23種（うち7種は外来種）の魚類の生息を確認しました。

確認河川数別および生活型別の確認種

河川数	生活型	種名（確認河川）	種数
4河川	海水～汽水魚	ボラ（荒、綾、毛、圀）	1種
3河川	淡水魚	ニゴイ（荒、綾、毛）	4種
	海水～汽水魚	スズキ（荒、綾、毛）、マハゼ（荒、綾、毛）	
	両側回遊魚	ヌマチチブ（荒、綾、毛）	
2河川	淡水魚	コイ（荒、圀）、ゲンゴロウブナ（荒、圀）、 カダヤシ （荒、圀）	4種
	降河回遊魚	ウナギ（綾、毛）	
1河川	淡水魚	オイカワ（荒）、 ハクレン （荒）、タモロコ（圀）、スゴモロコ、（毛）モツゴ（圀）、ギンブナ（綾）、 タイリクバラタナゴ （毛）、 オオクチバス （綾）、 カムルチー （圀）、 コクチバス （荒）、 ブルーギル （圀）	14種
	汽水魚	シモフリシマハゼ（綾）	
	海水～汽水魚	アシシロハゼ（綾）	
	両側回遊魚	ウキゴリ（毛）	

種名の細字は在来種、**太字**は外来種

確認河川の（荒）は荒川、（綾）は綾瀬川、（毛）は毛長川、（圀）は圀川

5 環境に配慮したまちづくり

（みどり豊かな美しいまちづくりを進めます。）

代表指標「樹木被覆率」

樹木被覆率（樹木に覆われた面積の占める割合）を、平成28年度までに9.4%に増やす。

環境基本計画の緑化計画は、「足立区緑の基本計画」に沿っています。「緑の目標」としている「樹木被覆率」は、平成16年度7.7%から、平成21年度では8%と順調に伸びています。

なお、「樹木被覆率」は10年に1度の調査数値を使用しているため、日常生活の実感として捉えられる緑の量（主要な測定地点で撮影した写真画面に占める緑の割合）である「緑視率」を新たな指標とします。

新指標「緑視率」





緑視率を、平成28年度までに18.1%に増やす。

単位：%

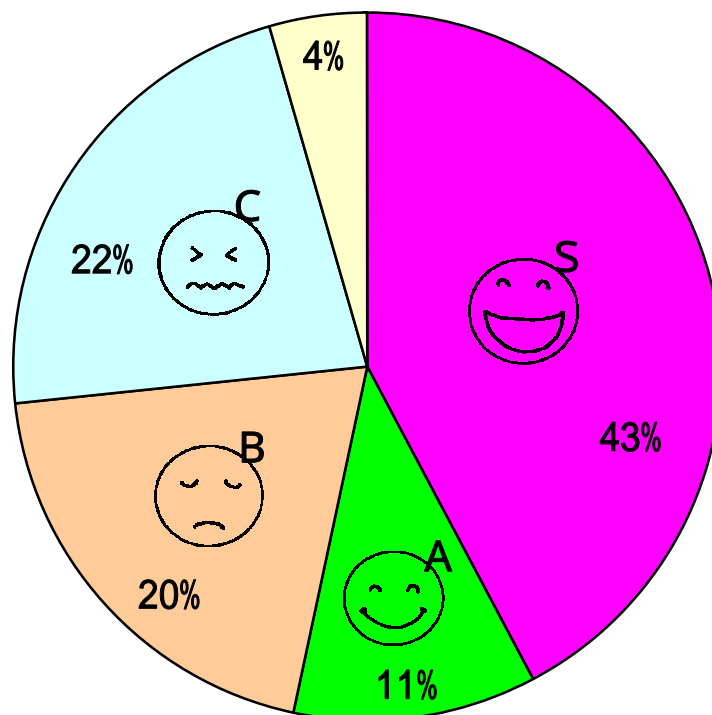
平成20年度 実績値	平成21年度 実績値	平成22年度 実績値	平成23年度 実績値	平成24年度 目標値	平成28年度 目標値
12.2	14.3	14.6	14.6	15.8	18.1

足立区環境基本計画 環境指標一覧(45指標)

平成23年度の進捗状況 評価別指標数

評価		指標数
	すでに目標を達成している指標	19 (19)
	着実に目標達成に向かっている指標	5 (9)
	目標に近づいているが、現状では目標達成が困難と思われ、取り組みの強化が必要な指標	9 (11)
	数値が目標に近づいていない指標	10 (3)
	その他(事業・指標の見直しなど)	2 (3)
	合 計	45 (45)

()内は
平成22年度の指標数



環境基本計画 環境指標一覧 評価別

評価別に指標をまとめました。目標に数値が近づいていない、目標達成が現状では困難と評価された指標については、その問題点を精査し、効果的に成果をあげられるよう取り組んでいく必要があります。各指標のこれまでの実績の推移、取り組みの進捗状況とその評価については、次頁以降の「環境基本計画 環境指標一覧 分野別」をご覧ください。

指標	指 標	23年度 数値	単位 「/年」と あるもの 以外は 累計値	目標値	
				年 度	数 値
1	CO2排出量	2,342,000	t-CO2	24	2,398,000
4	あだちエコネット事業登録者数 (3)	80,469	人	24	50,000
6	自転車利用環境整備延長	1.3	km	24	1.3
7	太陽光発電システム導入件数 (住宅系)	延2,102	件	24	延1,500
8	区公共施設CO2排出量	34,587	t-CO2	24	36,818
9	ごみ処理量	189,008	t	24	200,223
10	資源化率	19	%	24	18
11	区公共施設排出ごみ量	2,628	t	24	3,392
12	硫黄分規制値適合率 (4)	100	%	24	100
13	工場等排水水質規制基準適合率 (5)	100	%	24	100
14	綾瀬川(内匠橋)水質環境基準 適合率(BOD)(6)	83	%	24	80
15	主要幹線道路の自動車騒音 常時監視の夜間適合率(7) (防音施工済建物調整後)	75.0	%	24	70
16	ダイオキシン類環境基準適合率 (大気)	100	%	24	100
20	野鳥の種類	78	種	24	75
22	雨水流出抑制実施率 (公共・民間)(10)	100 (公共・民間 合算値)	%	24	100 (公共・民間 合算値)
23	自主管理公園数	173	か所	24	169
28	自然観察会等開催回数(年間)	322	回/年	24	250
29	体験教室等開催回数(年間)	233	回/年	24	200
30	インターネット環境 ホームページアクセス件数	1,427,239	件/年	24	800,000

指標	指 標	23年度 数値	単位 「/年」と あるもの 以外は 累計値	目標値	
				年 度	数 値
5	自転車駐車場収容台数	59,996	台	24	60,900
18	適正管理化学物質の環境への 排出率	0.19	%	24	0.20
31	自然観察リーダー登録者数	17	人	24	20
40	空地適正管理指導是正率 (17)	96	%	24	100
41	小型雨水貯留槽設置台数	延240	台	24	延250

指標	指 標	23年度 数値	単位 「/年」と あるもの 以外は 累計値	目標値	
				年 度	数 値
2	ISO14001認証取得事業所数 (1)	70	事業所	24	80
19	川の魚の種類(外来種を除く)	16	種	24	20
24	剪定枝等のチップ化量 (11)	3,018	立米	24	3,500
26	農業体験学習	57	校	24	72
33	公園面積率	4.7	%	24	5.6
34	緑視率 (14)	14.6	%	28	18.1
42	環境教育実践研究数	88	件	24	100
43	環境学習講座等対応数 (環境学習導入支援、再生館講 座、学び応援隊、環境セミナー)	62	件/年	24	84
45	キッズISOプログラム応募者数 (18)	2,928	人/年	24	5,000

指標	指 標	23年度 数値	単位 「/年」と あるもの 以外は 累計値	目標値	
				年 度	数 値
3	あだち区民環境家計簿(WEB版) 登録世帯数(2)	3,711	世帯	24	20,000
17	適正管理化学物質の環境への 排出量(8)	107	t	24	100
21	ビオトープ数(学校) (9)	14	か所	24	26
25	剪定枝等のコンポスト化量 (12)	173	立米	24	900
27	生産緑地面積	36.63	ha	24	42
32	こどもエコクラブ登録団体数 (13)	5	団体	24	20
36	緑化計画書提出割合 (15)	88	%	24	100
37	保存樹林指定ヶ所数	17	か所	24	24
38	電線地中化延長数 (16)	6,332	m	24	12,745
39	区立学校緑被率	11	%	24	25

指標	指 標	23年度 数値	単位 「/年」と あるもの 以外は 累計値	目標値	
				年 度	数 値
44	環境団体活動支援件数	廃止	件/年	24	10
35	樹木被覆率(14) (調査は10年に1度実施)	-	%	28	9.4

環境基本計画 環境各指標一覧 分野別

項目	指標	指 標	単位 「/年」と あるもの 以外は 累計値	環境基本計画 に掲載されて いる数字		参考				23年度 数値	目標値		23年度 実績 評価	進捗状況・今後の見通し
				年度	数値	19年度 数値	20年度 数値	21年度 数値	22年度 数値		年度	数値		
地球 温暖化 防止	1	CO2排出量	t-CO2	18	2,521,000	2,440,000	2,317,000	2,510,000	2,452,000	2,342,000	24	2,398,000		太陽光発電システムの助成などの省エネ推進やごみの減量、再資源化による循環型社会への取り組みなどが功を奏し、目標値を下回った。(実績は21年度排出実績)省エネ等の推進により当面は排出減で推移すると思われる(23年の東日本大震災の原発停止による影響は平成26年度頃の数値から示される)
	2	ISO14001認証取得事業所数 (1)	事業所	18	59	70	71	73	72	70	24	80		認証取得事業所への助成金制度等を今後も継続し、取得事業所数増を目指す。
	3	あだち区民環境家計簿 (WEB版)登録世帯数(2)	世帯	19	300	864	2,428	2,579	2,796	3,711	24	20,000		登録者数は増加しているものの目標値には達していない状況である。イベント等あらゆる機会を通じて積極的にPRし登録者数を増やしていくとともに利用しやすいシステムを構築することも視野に入れ、検討していく。
	4	あだちエコネット事業登録者数 (3)	人	18	20,000	延39,510	延47,360	延53,610	延54,019	延80,469	24	50,000		既に目標数値は達成したが、引き続き登録数を増やす努力をしていく。
	5	自転車駐車場収容台数	台	18	45,990	50,470	53,303	54,966	58,333	59,996	24	60,900		全区的に自転車駐車場は充足しつつあるため収容台数の伸び率は低くなるが、24年度の目標は達成できると思われる。
	6	自転車利用環境整備延長	km	18	0.4	0.4	1.1	1.1	1.1	1.3	24	1.3		目標を達成している。今後は、自転車走行環境整備に係る社会実験の実施を踏まえ、更なる整備を目指す。
	7	太陽光発電システム導入件数 (住宅系)	件	18	延262	延べ318	延425	延989	延1,581	延2,102	24	延1,500		目標を達成している。今後も引き続き推進していく。
	8	区公共施設CO2排出量	t-CO2	18	36,963	43,062	42,135	40,499	39,066	34,587	24	36,818		電力供給不足の懸念から節電意識が高まり、前年度に比べて大きく削減でき、目標を達成した。今後も引き続き推進していく。
循環型 社会の 構築	9	ごみ処理量	t	18	217,634	211,098	199,127	193,428	191,249	189,008	24	200,223		目標を達成している。今後も引き続きごみ減量化の取り組みを推進していく。
	10	資源化率	%	18	16	16	16	16	17	19	24	18		区内全域実施の不燃ごみ資源化が安定した成果を収め、資源化率上昇に寄与している。粗大ごみの更なる資源化も目指したい。
	11	区公共施設排出ごみ量	t	18	2,740	2,691	2,675	2,720	2,576	2,628	24	3,392		前年度から増加したが、目標は達成している。今後も引き続き推進していく。
健康・安 全なぐら しの確保	12	硫黄分規制値適合率 (4)	%	18	100	100	100	100	100	100	24	100		今後も100%を堅持する。
	13	工場等排水水質規制基準 適合率(5)	%	18	100	100	100	100	100	100	24	100		今後も100%を堅持する。
	14	綾瀬川(内匠橋)水質環境 基準適合率(BOD)(6)	%	18	75	75	92	75	100	83	24	80		都環境局データによる。引き続き、流域自治体と連携しながら浄化対策を推進する。
	15	主要幹線道路の自動車騒音 常時監視の夜間適合率(7) (防音施工済建物調整後)	%	18	-	-	82.6	78.5	74.3	75.0	24	70		目標を達成している。今後も道路管理者等、関係機関と連携していく。
	16	ダイオキシン類環境基準 適合率(大気)	%	18	100	100	100	100	100	100	24	100		今後も100%を堅持する。

環境基本計画 環境各指標一覧 分野別

項目	指標	指 標	単位 「/年」と あるもの 以外は 累計値	環境基本計画 に掲載されて いる数字		参考				23年度 数値	目標値		23年度 実績 評価	進捗状況・今後の見通し
				年度	数値	19年度 数値	20年度 数値	21年度 数値	22年度 数値		年度	数値		
	17	適正管理化学物質の環境 への排出量(8)	t	18	232	192	131	89	105	107	24	100		対象物質にヘキサンが追加された影響で目標値を上回っているが、引き続き排出量削減を事業場に呼びかけていく。
	18	適正管理化学物質の環境 への排出率	%	18	-	0.33	0.22	0.16	0.18	0.19	24	0.20		目標値を達成している。
人と自然 の豊かな ふれあいの 創出	19	川の魚の種類(外来種を除く)	種	18	20	20	24	28	28	16	24	20		目標に達しなかった。原因は不明である。今後も継続して様子をみたい。
	20	野鳥の種類	種	18	73	75	69	77	75	78	24	75		目標数値を達成している。
	21	ピオトープ数(学校) (9)	ヶ所	18	15	14	14	13	14	14	24	26		学校のピオトープ設置については、衛生面を始め、その管理が課題になっているため、今後も施設更新事業に併せて慎重に検討していく。
	22	雨水流出抑制実施率 (公共・民間)(10)	%	18	100 (公共・民間 合算値)	100 (公共・民間 合算値)	100 (公共・民間 合算値)	100 (公共・民間 合算値)	100 (公共・民間 合算値)	100 (公共・民間 合算値)	24	100 (公共・民間 合算値)		今後も100%を堅持する。
	23	自主管理公園数	ヶ所	18	137	148	162	162	163	173	24	169		順調に実績を伸ばしている。今後も引き続き推進していく。
	24	剪定枝等のチップ化量 (11)	立方m	18	3,392	2,821	2,657	4,363	3,860	3,018	24	3,500		農水省通知等により土壌改良資材の施用・使用・生産等の自粛規制があり、供給先が減少した結果、目標を下回る数値となった。今後は国の動向を見極めつつ、新たなチップの供給先を検討し、目標値に近づけていく。
	25	剪定枝等のコンポスト化量 (12)	立方m	18	777	283	912	1,183	1,236	173	24	900		農水省通知等により土壌改良資材の施用・使用・生産等の自粛規制があり活用することができなかった。今後も国の動向を見極めながらコンポスト化を検討していく。 H23コンポスト化量はH22の残量
	26	農業体験学習	校	18	49	51	52	59	53	57	24	72		福島第一原発事故に起因する放射能汚染による影響が懸念されたが、前年度を上回る実績であった。
	27	生産緑地面積	ha	18	39	38.7	38.4	37.49	36.91	36.63	24	42		面積増加対策には限界があり、目標の達成は厳しい。
	28	自然観察会等開催回数 (年間)	回/年	18	637	680	246	221	291	322	24	250		目標を達成している。今後は現状を維持していく。
	29	体験教室等開催回数 (年間)	回/年	18	170	176	198	223	295	233	24	200		23年度は震災の影響もあり、減少しているが、概ね順調に進行している。
	30	インターネット環境 ホームページアクセス件数	件/年	18	190,350	274,593	448,825	554,126	901,496	1,427,239	24	800,000		目標を達成している。今後も適宜内容を更新し、よりわかりやすいホームページ作りを進めてアクセス件数を伸ばしていく。
	31	自然観察リーダー登録者数	人	18	-	-	12	15	20	17	24	20		昨年度、目標に達したが、継続意向調査の結果3名が登録解除した。24年度、新規養成し、目標達成に努力する。
	32	こどもエコクラブ登録団体数 (13)	団体	18	9	9	9	9	5	5	24	20		国の事業ではあるが、あらゆる機会を通じて積極的にPRをしていく。
33	公園面積率	%	18	5.4	4.4	4.4	4.5	4.6	4.7	24	5.6		目標値が人口増減により変動するため、目標値の算定方法の変更を検討する。	

環境基本計画 環境各指標一覧 分野別

項目	指標	指 標	単位 「/年」と あるもの 以外は 累計値	環境基本計画 に掲載されて いる数字		参考				23年度 数値	目標値		23年度 実績 評価	進捗状況・今後の見通し	
				年度	数値	19年度 数値	20年度 数値	21年度 数値	22年度 数値		年度	数値			
環境に 配慮した まちづく り	34	緑被率(調査は10年に1度実施)(14)	%	16	16.3			17.1	-	-	28	18.1	-		
	35	樹木被覆率(調査は10年に1度実施)(14)	%	16	7.7			8.0	-	-	28	9.4	-		
	34, 35を 変更	緑視率	%				12.2	14.3	14.6	14.6	24	15.8			駅前や主要交差点の緑視率は既存の緑の保全・生長により増加した一方、一部には防犯、交通安全上による樹木剪定で減少した結果、前年度と同ポイントであった。今後も民間、公共緑化の推進を図り緑視率の増加を目指していく。
	36	緑化計画書提出割合(15)	%	18	99	91	92	93	92	88	24	100			ほぼ横ばいの状況が続いていたが、平成23年度は4ポイント減少した。建築申請に係る情報の収集と指導の徹底を図る。
	37	保存樹林指定ヶ所数	ヶ所	18	10	11	15	16	16	17	24	24			新規指定が1件あったが、目標値に達する増加率ではない。引き続き候補地の選定及び指定に取り組んでいく。
	38	電線地中化延長数(16)	m	18	5,462	5,652	5,932	6,002	6,002	6,332	24	12,745			地区計画や都市計画道路等の整備計画に従い引き続き取り組んでいくが、目標達成は困難な状況である。
	39	区立学校緑被率	%	18	11	11	11	11	11	11	24	25			施設更新事業の屋上緑化や校庭改修に合わせた一部芝生化の実施など、引き続き緑被率の向上を図っていく。
	40	空地適正管理指導是正率(17)	%	18	95	91	92	96	90	96	24	100			管理指導できない案件はあるが、前年度に比べ、実績値は上がっている。今後も適正な執行を継続し、区の委託をPRすることで、目標値の達成に努めていく。
41	小型雨水貯留槽設置台数	台	18	13	延159	延176	延214	延236	延240	24	延250		目標は若干下回ったが、引き続き制度のPRを行い、助成を実施していく。		
各分野を 貫く施策	42	環境教育実践研究数	件	18	82	92	93	83	87	88	24	100		CO2削減アクション月間、夏ECOには全校が取り組んでいる。環境教育の取り組みを年間計画に位置づけるよう、啓発を一層推進していく。	
	43	環境学習講座等対応数(環境学習導入支援、再生館講座、学び応援隊、環境セミナー)	件/年	18	42	79	80	83	82	62	24	84		環境政策課:環境学習導入支援22年度から廃止。学び応援隊は温暖化対策係分2回。再生館講座は震災後約2ヶ月館閉館したため、回数が前年度より減少した。59回 環境保全課:23年度、エコ体験ツアーを1回実施した。	
	44	環境団体活動支援件数	件/年	18	2	3	0	2	廃止	廃止	24	10		廃止	
	45	キッズISOプログラム応募者数(18)	人/年	18	1,383	1,173	1,826	1,368	1,626	2,928	24	5,000		教育委員会と連携し、応募数の増加に努めるとともに内容の充実も図っていく。24年度から事業の見直しにより、初級編だけの実施とする。	

【注釈】

- 1 組織活動、製品、サービスの環境負荷低減といった環境パフォーマンスを改善する仕組み、運用システム(環境マネジメントシステム)を構築するために要求される国際規格。
- 2 家庭の日常生活におけるエネルギーや資源の消費を記録し、環境への配慮行動を点数化するなど、環境負荷低減の目安にする記録簿。区HP上に作成したWEB版は、各家庭で省エネ生活の結果を送信すると、区民が取り組んだCO2削減量等が集計される。
- 3 区民、地域、学校、各種団体、事業者がネットワークを組み、区と協働で環境活動に取り組む事業。ペットボトル回収事業、循環型食品リサイクル事業、おもちゃトレード事業が行われている。
- 4 一定量以上の重油等の石油系液体燃料を使用している事業場については、液体燃料中に含まれる硫黄分に規制値が定められている。
適合率(%) = 規制値に適合した事業場数 ÷ 調査対象事業場数 × 100
- 5 六価クロム化合物やシアン化合物等、工場等から下水道以外に排出される排水中の有害物質等が規制されている。
適合率(%) = 排水規制に適合した事業場数 ÷ 調査対象事業場数 × 100
- 6 河川の水質を示す生物化学的酸素要求量(BOD)が年間を通して適合した割合。
適合率(%) = 内匠橋におけるBODが適合した調査回数 ÷ 全調査回数 × 100
- 7 適合率(%) = 夜間の自動車騒音の環境基準を達成した戸数 ÷ 調査対象戸数 × 100
- 8 塩酸やトルエンなど化学物質の中でも特に適正な管理が必要とされる物質のこと。一定量以上を使用している事業場については、使用量等の報告が義務付けられている。
- 9 動植物の棲息・生育空間。都市における生垣・並木・屋上や壁面の緑など、人間と生物の共存が意識された空間概念でもある。
- 10 下水道への急激な雨水流入に伴う都市型水害を防ぐため、雨水の地下浸透や貯留によって流出量を抑制する。公共施設での整備と民間施設への設置指導を行っている。
- 11 粉碎機器にかけて、細かく砕いた木片。
- 12 微生物の力により分解・発酵させてできた堆肥。
- 13 環境省が参加を呼びかけている、地域における環境活動を行う小中学生のグループ。
- 14 区面積中、高木や中木、低木などの樹木で覆われた土地の区域「樹木被覆地」が占める割合が「樹木被覆率」。「樹木被覆地」に、芝生や草で覆われた土地の区域「草地」と「農地」を加えた面積割合が「緑被率」。「緑視率」は日常生活の実感として捉えられる緑の量として主要な測定地点で撮影した写真画面に占める緑の割合。
- 15 「足立区緑の保護育成条例」により、区内に建築物の新築、改築、増築等行おうとする者は敷地内の緑化に努め、緑化計画書を区長に提出することとされている。
- 16 区道のみ。国の補助事業に伴う計画上の延べ延長数は12,862m。
- 17 空き地の土地所有者に対し、害虫の発生やゴミの不法投棄などで住環境に悪影響を及ぼさないよう、定期的な草刈りの促進や、不法投棄の対策についての連絡調整を行っている。
- 18 子供向け環境教育プログラム。子どもがマネージャーとなり、家庭の中でのCO2排出抑制を始めとする環境配慮行動を数値評価していく。東京都が「入門編」を、区が「初級編」を実施。